

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年2月13日

【四半期会計期間】 第91期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

【会社名】 本州化学工業株式会社

【英訳名】 Honshu Chemical Industry Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 福山 裕二

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋三丁目3番9号

【電話番号】 03(3272)1481(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 和田 和興

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋三丁目3番9号

【電話番号】 03(3272)1481(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 和田 和興

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第90期 第3四半期 連結累計期間	第91期 第3四半期 連結累計期間	第90期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (百万円)	14,848	15,341	20,798
経常利益 (百万円)	2,414	2,061	3,047
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,355	1,110	1,751
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,548	1,327	1,919
純資産額 (百万円)	20,059	20,869	20,430
総資産額 (百万円)	28,412	29,138	28,745
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	118.09	96.78	152.65
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	63.2	65.0	63.5

回次	第90期 第3四半期 連結会計期間	第91期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	29.08	59.52

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

財政状態及び経営成績の状況

当社グループの売上高は15,341百万円と前年同四半期に比べ493百万円(3.3%)の増収、営業利益は2,070百万円と前年同四半期に比べ387百万円(15.8%)の減益、経常利益は2,061百万円と前年同四半期に比べ353百万円(14.6%)の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,110百万円と前年同四半期に比べ244百万円(18.0%)の減益となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

<化学品>

化学品セグメントの売上高は、6,853百万円と前年同四半期に比べ11百万円(0.2%)の増収、総売上高に占める割合は44.7%(前年同四半期比1.4ポイント減)となり、セグメント利益は538百万円と前年同四半期に比べ211百万円(28.2%)の減益となりました。

<機能材料>

機能材料セグメントの売上高は、4,126百万円と前年同四半期に比べ824百万円(25.0%)の増収、総売上高に占める割合は26.9%(前年同四半期比4.7ポイント増)となり、セグメント利益は709百万円と前年同四半期に比べ56百万円(8.7%)の増益となりました。

<工業材料>

工業材料セグメントの売上高は、4,043百万円と前年同四半期に比べ325百万円(7.5%)の減収、総売上高に占める割合は26.4%(前年同四半期比3.0ポイント減)となり、セグメント利益は1,359百万円と前年同四半期に比べ143百万円(9.6%)の減益となりました。

<その他>

販売用役等のその他セグメントの売上高は318百万円と前年同四半期に比べ17百万円(5.3%)の減収、総売上高に占める割合は2.1%(前年同四半期比0.2ポイント減)となり、セグメント利益は28百万円と前年同四半期に比べ0百万円(0.8%)の減益となりました。

総資産は29,138百万円となり、前年度末に比べ392百万円増加しました。これは流動資産が、現金及び預金の増加(1,110百万円)、売掛金の減少(575百万円)等により、前年度末に比べ724百万円増加し、19,114百万円となったこと、また固定資産が、機械装置及び運搬具の減少(501百万円)等により、前年度末に比べ332百万円減少し、10,023百万円となったことによります。

負債は8,268百万円となり、前年度末に比べ47百万円減少しました。これは流動負債が、買掛金の増加(280百万円)、設備関係未払金の減少(459百万円)等により、前年度末に比べ78百万円減少し、5,354百万円となったこと、また固定負債が前年度末に比べ31百万円増加し、2,913百万円となったことによります。

純資産は、20,869百万円となり、前年度末に比べ439百万円増加しました。これは利益剰余金の増加(766百万円)、非支配株主持分の減少(249百万円)等によります。

この結果、自己資本比率は65.0%と前年度末に比べ1.5ポイントの上昇となりました。

事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、601百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、原材料等の製造費、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした資金需要は、設備投資、修繕等によるものであります。

当社グループは、事業運営上必要な流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としており、運転資金は自己資金を基本としております。

なお、当第3四半期連結累計期間の末日における借入金及びリース債務を含む有利子負債の残高は1,705百万円となっており、また現金及び現金同等物の残高は8,248百万円となっております。

当第3四半期連結累計期間の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

(全般)

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、通商問題や海外経済の不確実性等のリスクが影響し、輸出や生産の弱さが継続したことにより、景気に足踏み感が見られましたが、設備投資や雇用情勢には改善が見られました。

当社グループを取り巻く事業環境は、自動車市場や情報関連財市場では成長の減速並びにサプライチェーンにおける在庫調整が継続し、特に電子材料の事業が大きく影響を受けました。

光学レンズ材料やビタミンE・酸化防止剤等クレゾール誘導品関連市場では堅調な需要の継続が見られました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における経営成績は、前年同四半期に比べ増収減益となりました。

(セグメント別)

セグメントごとの経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりです。

<化学品>

ビスフェノールは、パソコン、スマートフォンやデジタル家電等の情報通信機器の電子部品に用いられる液晶ポリマー(LCP)や医療、航空機分野等で使用されるポリフェニルスルホン(PPSU)の原料として使用されております。当第3四半期連結累計期間においては、国内LCP向け需要の回復や、海外向け需要の増加があったものの、前四半期までの販売減の影響により、売上高は前年同四半期を下回りました。

クレゾール誘導品は、家畜用飼料の添加剤に使用されるビタミンEの原料や電子材料及び酸化防止剤等の原料として使用されております。当第3四半期連結累計期間においては、ビタミンE原料・酸化防止剤需要共に引き続き堅調で、市況も継続して上昇傾向にあり、売上高は前年より増加しました。

この結果、化学品セグメントの売上高は前年同四半期並みとなりましたが、利益は前年同四半期を下回りました。

<機能材料>

当社の電子材料は、半導体及びフラットパネルディスプレイ(液晶・有機ELディスプレイ)等の製造過程で使用されております。なお、当社製品群及び川下製品の大半は、対韓貿易管理強化の対象品目には該当いたしません。当第3四半期連結累計期間においては、半導体・フラットパネルディスプレイ関連川下製品の在庫調整がさらに進んだ結果、売上高は前年同四半期を下回りました。

特殊ビスフェノールを原料とした樹脂は、耐熱性、光学特性に優れているため、特殊ポリカーボネート樹脂(自動車用部品、光学・電子部品用途向け)や特殊エポキシ樹脂(半導体封止材、積層板用途向け)の原料として使用されております。当第3四半期連結累計期間においては、光学レンズ・成形材の主要分野で需要が堅調に推移したため、売上高は前年同四半期を大きく上回りました。

この結果、機能材料セグメントは売上高、利益ともに前年同四半期を上回りました。

<工業材料>

自動車部品用途向けの特殊ポリカーボネート樹脂の原料に使用される特殊ビスフェノールは、主に海外生産拠点のハイビス社において製造販売しております。当第3四半期連結累計期間においては、自動車市場全般の落ち込み、サプライチェーンにおける在庫調整に加え為替変動の影響を受け、売上高は前年同四半期を下回りました。

受託品の売上高はほぼ前年同四半期並みとなりました。

この結果、工業材料セグメントは売上高、利益ともに前年同四半期を下回りました。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,500,000	11,500,000	(株)東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は100株 であります。
計	11,500,000	11,500,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日		11,500,000		1,500		1,013

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 23,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,467,200	114,672	
単元未満株式	普通株式 9,700		
発行済株式総数	11,500,000		
総株主の議決権		114,672	

(注)「単元未満株式」の欄には、自己保有株式が次のとおり含まれています。

本州化学工業株式会社 6株

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
本州化学工業株式会社	東京都中央区日本橋 3 - 3 - 9	23,100		23,100	0.20
計		23,100		23,100	0.20

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,138	8,248
売掛金	6,092	5,517
商品及び製品	3,363	3,742
仕掛品	311	262
原材料及び貯蔵品	1,234	1,227
その他	250	116
流動資産合計	18,389	19,114
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具(純額)	6,470	5,969
その他(純額)	2,911	3,232
有形固定資産合計	9,381	9,202
無形固定資産	50	39
投資その他の資産	924	782
固定資産合計	10,356	10,023
資産合計	28,745	29,138
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,066	2,346
短期借入金	1,000	1,000
未払法人税等	371	267
役員賞与引当金	32	27
設備関係未払金	898	438
その他	1,063	1,273
流動負債合計	5,433	5,354
固定負債		
退職給付に係る負債	2,074	2,127
その他	808	786
固定負債合計	2,882	2,913
負債合計	8,315	8,268

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,500	1,500
資本剰余金	1,013	1,013
利益剰余金	15,748	16,514
自己株式	14	14
株主資本合計	18,247	19,013
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	45	-
為替換算調整勘定	10	39
退職給付に係る調整累計額	46	29
その他の包括利益累計額合計	8	68
非支配株主持分	2,174	1,924
純資産合計	20,430	20,869
負債純資産合計	28,745	29,138

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	14,848	15,341
売上原価	10,841	11,594
売上総利益	4,007	3,747
販売費及び一般管理費	1,549	1,677
営業利益	2,457	2,070
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	14	3
投資有価証券売却益	-	36
受取保険金	-	32
その他	3	4
営業外収益合計	17	76
営業外費用		
支払利息	29	28
撤去費用	10	39
その他	20	17
営業外費用合計	60	84
経常利益	2,414	2,061
税金等調整前四半期純利益	2,414	2,061
法人税等	712	613
四半期純利益	1,702	1,448
非支配株主に帰属する四半期純利益	347	337
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,355	1,110

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	1,702	1,448
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15	45
為替換算調整勘定	123	92
退職給付に係る調整額	15	16
その他の包括利益合計	154	120
四半期包括利益	1,548	1,327
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,258	1,033
非支配株主に係る四半期包括利益	289	294

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	1,060百万円	1,135百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月22日 定時株主総会	普通株式	206百万円	18.00円	2018年3月31日	2018年6月25日	利益剰余金
2018年11月6日 取締役会	普通株式	114百万円	10.00円	2018年9月30日	2018年12月3日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月21日 定時株主総会	普通株式	206百万円	18.00円	2019年3月31日	2019年6月24日	利益剰余金
2019年11月8日 取締役会	普通株式	137百万円	12.00円	2019年9月30日	2019年12月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	化学品	機能材料	工業材料	計				
売上高								
外部顧客への売上高	6,842	3,301	4,369	14,512	335	14,848	-	14,848
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	6,842	3,301	4,369	14,512	335	14,848	-	14,848
セグメント利益	750	653	1,503	2,906	28	2,935	477	2,457

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、販売用役等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額 477百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 477百万円が含まれております。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	化学品	機能材料	工業材料	計				
売上高								
外部顧客への売上高	6,853	4,126	4,043	15,023	318	15,341	-	15,341
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	6,853	4,126	4,043	15,023	318	15,341	-	15,341
セグメント利益	538	709	1,359	2,607	28	2,636	566	2,070

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、販売用役等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額 566百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 566百万円が含まれております。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益	118円09銭	96円78銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,355	1,110
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	1,355	1,110
普通株式の期中平均株式数(千株)	11,476	11,476

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

2019年11月8日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額..... 137百万円

(ロ) 1株当たりの金額..... 12円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2019年12月2日

(注) 2019年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月13日

本州化学工業株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 渡 辺 伸 啓 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 垂 井 健 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている本州化学工業株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、本州化学工業株式会社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は四半期報告書提出会社が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。